

2018年（平成30年） 12月28日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

12/13~12/19のNYMEX・WTIは、46.24~52.58ドルの範囲で大きく軟化した。

12月20日は、米国の一部政府機関の封鎖などを背景に米国株式が売り込まれる中、景気の先行きやOPEC・非加盟産油国による協調減産への悲観的見通しが高まり、大幅反落し、2017年7月21日以来1年5ヶ月ぶりの安値を記録した。この日から中心限月となった2月限終値は前日比2.29ドル安の45.88ドル。

週末21日は、売り買いが交錯したが、世界的な石油の供給過剰感や休暇前の利益確定売りから、続落した。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は883基(前週比10基増)と増加し、売りを加速した。2月限終値は前営業日比0.29ドル安の45.59ドル。

週明け24日は、米国株式の暴落を背景に投資家心理の冷え込みから、大幅続落し、2017年6月21日以来の安値を付けた。1月限終値は前週末比3.06ドル安の42.53ドル。

25日は、クリスマス休暇につき休場。

休場明け26日は、前日安値の反動から大量の買戻しが入り、また、米国株価の上昇を背景に投資家心理も改善され、大幅反発した。サウジアラビアが減産合意を上回る減産を予定しているとの報道も支援材料となった。米国エネルギー情報局(EIA)週報の在庫週報は休日の関係で二日遅れ。2月限終値は前日比3.69ドル高の46.22ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(2月渡し)は、前週55.30~59.70ドルの範囲で推移した。12月20日55.20ドル、21日53.50ドル、25日49.50ドル、26日49.40ドルで推移した。

為替は、前週112.50~113.61円の範囲で推移した。12月20日112.60円、21日111.35円、25日110.07円、26日110.68円で推移した。

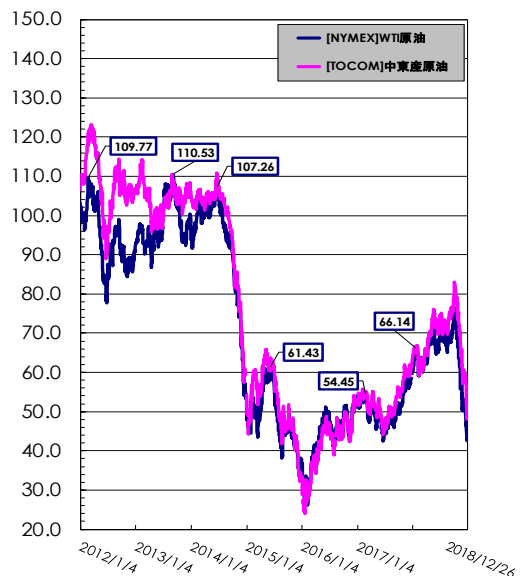
財務省が27日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、12月上旬の原油輸入平均CIF価格は、54,320円/klで、前旬比4,337円安、ドル建てでは76.40ドルで前旬比5.65ドル安。為替レートは1ドル/113.02円だった。

主要元売会社の12月第4週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きと0.5円の値下げに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺したが、原油調達コストは値下がりがした。

そのような中で、12月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.3円の値下がり、軽油も同1.1円の値下がり、灯油も同16円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、9週連続の値下がりが続いた。この週(12月第3週)の原油コストは横ばいで、元売の卸価格は、ガソリンが据え置きと1.0円の値下げ、軽油・灯油が据え置きと0.5円の値下げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/16 ~ 12/22	3,566 ▲ 36	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	91.1 ▲ 1.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	12/22	13,694 ▲ 1,081	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/25	48.11 ▼ -10.41	▼ -13.4
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/24	42.53 ▼ -7.35	▼ -17.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月上旬	76.40 ▼ -5.65	▲ 13.89
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	54,320 ▼ -4,337	▲ 10,116
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.02 ▲ 0.63	▼ -0.60
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/25	111.07 ▲ 3.40	▲ 3.16

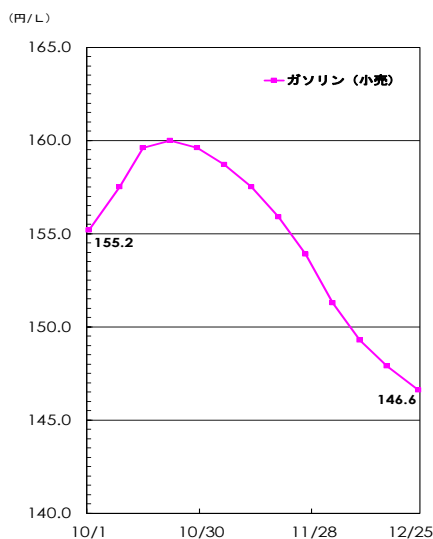
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/16 ~ 12/22	1,058 ▲ 60	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	939 ▲ 40	▼ -	
	輸出	"	90 ▼ -52	▲ -	
	在庫	12/22	1,681 ▲ 29	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/18 ~ 12/24	56.0 ▼ -0.7	▼ -3.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/18 ~ 12/24	49.7 ▼ -3.9	▼ -8.4
		(TOCOM/中部)	12/21	53.5 ▼ -2.1	▼ -5.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/25	146.6 ▼ -1.3	▲ 4.9	

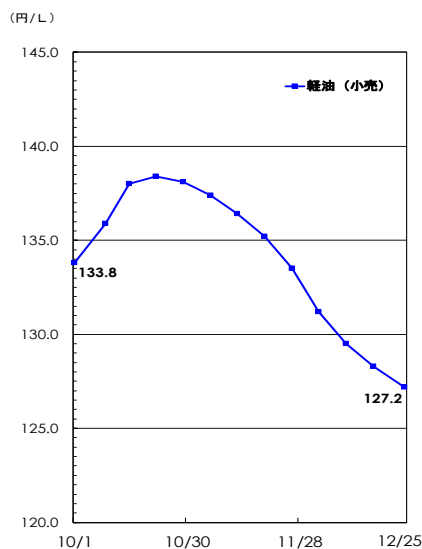
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

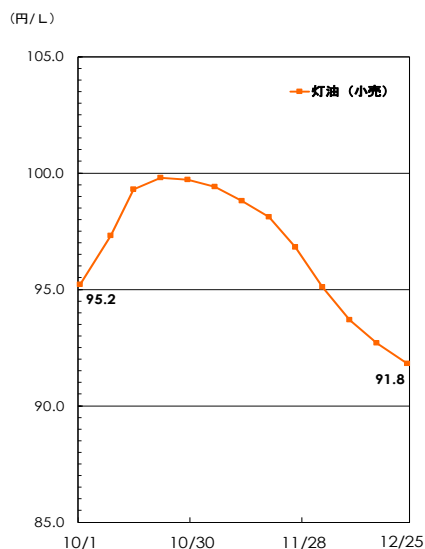
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/16 ~ 12/22	830 ▲ 60	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	721 ▲ 159	▲ -	
	輸出	"	161 ▼ -168	▲ -	
	在庫	12/22	1,584 ▼ -52	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/18 ~ 12/24	60.0 ▼ -0.6	▲ 1.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/18 ~ 12/24	62.2 ▲ 0.1	▲ 4.2
		(TOCOM/中部)	12/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/25	127.2 ▼ -1.1	▲ 7.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/16 ~ 12/22	436 ▲ 143	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	559 ▲ 76	▲ -	
	輸出	"	50 ▲ 50	▲ -	
	在庫	12/22	2,440 ▼ -174	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/18 ~ 12/24	58.9 ▼ -0.2	▼ -2.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/18 ~ 12/24	55.4 ▼ -2.8	▼ -5.1
		(TOCOM/中部)	12/21	56.0 ▼ -4.2	▼ -4.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/25	91.8 ▼ -0.9	▲ 7.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月26日のNYMEX市場WTI原油は、前日の約1年半ぶりの安値の反動から大量の買戻しが入り、また、米国株価の記録的上昇を背景に投資家心理も改善され、大幅反発した。サウジアラビアが減産合意を上回る減産を予定しているとの報道も支援材料となった。米国エネルギー情報局(EIA)週報の在庫週報は休日の関係で二日遅れ。2月限終値は前日比3.69ドル高の46.20ドル。3月限の終値は前日比3.72ドル高の46.54ドルだった。

EIAによると、12月24日時点のガソリンの小売価格は、前週比4.8セント値下がりの1ガロン2.321ドル(68.8円/ℓ)、

ディーゼルは前週比4.4セント値下がりの3.077ドル(91.2円/ℓ)となった。ガソリンは11週連続の値下がり、ディーゼルは10週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年12月16日～12月22日に休止したトッパー能力は0.0万バレル/日で、前週に対して変化はない。(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は356.6万klと、前週に比べ3.6万kl増加。前年に対しては26.2万klの減少。トッパー稼働率は91.1%と前週に対して1.0ポイントの増加、前年に対しては6.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/6.0%増、ジェット/32.4%減、灯油/48.9%増、軽油/7.9%増、A重油/4.0%増、C重油/30.2%増。今週のC重油の輸入は4.0万kl(前週比0.7万kl減)。軽油の輸出は16.1万kl(前週比16.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではA重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では灯油、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は93.9万kl(対前週4.5%増)と前週比で2週振りで増加となり、16週連続で100万klを下回った

ジェット11.0万kl(対前週150.4%増)、灯油55.9万kl(対前週

15.7%増)、軽油72.1万kl(対前週28.3%増)、A重油26.9万kl(対前週1.4%減)、C重油22.0万kl(対前週40.3%増)。

(単位:千KL)

	今週 (12/16 ~ 12/22)	前週 (12/9 ~ 12/15)	前週比	
ガソリン	939	899	▲ 40	(4%)
ジェット燃料	110	44	▲ 66	(150%)
灯油	559	483	▲ 76	(16%)
軽油	721	562	▲ 159	(28%)
A重油	269	273	▼ -4	(-1%)
C重油	220	157	▲ 63	(40%)
合計	2,818	2,418	▲ 400	(17%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月22日時点の在庫は、ガソリン、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは168.1万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては7.8万kl多い。

灯油は244.0万kl、前週差17.4万kl減。前年に対しては16.2万kl多い。

軽油は158.4万kl、前週差5.2万kl減。前年に対しては8.5万kl多い。

A重油は82.8万kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては16.0万kl多い。

C重油は203.0万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては11.5万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (12/22)	前週 (12/15)	前週比	
ガソリン	1,681	1,652	▲ 29	(2%)
ジェット燃料	958	1,044	▼ -86	(-8%)
灯油	2,440	2,614	▼ -174	(-7%)
軽油	1,584	1,636	▼ -52	(-3%)
A重油	828	842	▼ -14	(-2%)
C重油	2,030	2,019	▲ 11	(1%)
合計	9,521	9,807	▼ -286	(-2.9%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月18日から12月24日の原油価格は、週対比で値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺し、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン109～110円台で緩やかに値下がり、軽油59～60円台で緩やかに値下がり、灯油58～59円台で小幅な値下がり推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン110～111円台で出入りし値下がり、軽油62円台でわずかに値下がり、灯

油53～56円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン101～105円台で大きく値下がり、軽油62円台でわずかに値下がり、灯油54～56円台で出入り激しく値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに3.0～4.0円の値下げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上のガソリンの横ばい・海上と先物の軽油の値上りを除き、他の取引は値下がりした。

12月第5週と1月第1週(12月27日～1月9日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(12月18日～12月24日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油も0.2円の値下がり、軽油も0.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが横ばい、灯油が2.8円の値下がり、軽油は0.2円の値上りだった。

先物価格は、ガソリンが3.9円の値下がり、灯油は2.8円の値下がり、軽油は0.1円の値上りだった。

原油価格は大きく値下がりし、為替の円安が一部相殺したが、原油コストは大きく値下がりした。

12月第5週と1月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに3.0～4.0円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (12/18 ~ 12/24)	前週 (12/11 ~ 12/17)	前週比
レギュラー	56.0	56.7	▼ -0.7
灯油	58.9	59.1	▼ -0.2
軽油	60.0	60.6	▼ -0.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (12/18 ~ 12/24)	前週 (12/11 ~ 12/17)	前週比
レギュラー	49.7	53.6	▼ -3.9
灯油	55.4	58.2	▼ -2.8
軽油	62.2	62.1	▲ 0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/18～12/24実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.7	▼ -3.9	▼ -2.3
灯油	▼ -0.2	▼ -2.8	▼ -1.5
軽油	▼ -0.6	▲ 0.1	▼ -0.3
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

12月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.3円安の146.6円、軽油も同1.1円安の127.2円、灯油は同0.9円安の91.8円(18%ベースでは16円安の1,652円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに9週連続の値下がりだった都道府県別には、ガソリンの値上りは1県、横ばいも1県、値下がり45都道府県だった。全国最安値は石川県の140.8円(前週比2.2円安)、次が141.0円の埼玉県(同1.3円安)、最高値は長崎県の160.5円(同1.8円安)であった。値上がりした県は0.1円高の高知県(155.3円)、横ばいの県は鹿児島県、最も値下がりしたのは2.4円安の福島県(145.8円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに3.0～4.0円の値下げに分かれた。今週は、原油価格が大きく値下がりし、為替レートは円高で、原油コストは大きく値下がりした。次週(12月25日)のガソリン・灯油の小売価格は値下がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/25)	前週 (12/17)	前週比	直近高値
レギュラー	146.6	147.9	▼ -1.3	08/8/4 185.1
灯油	91.8	92.7	▼ -0.9	08/8/11 132.1
軽油	127.2	128.3	▼ -1.1	08/8/4 167.4

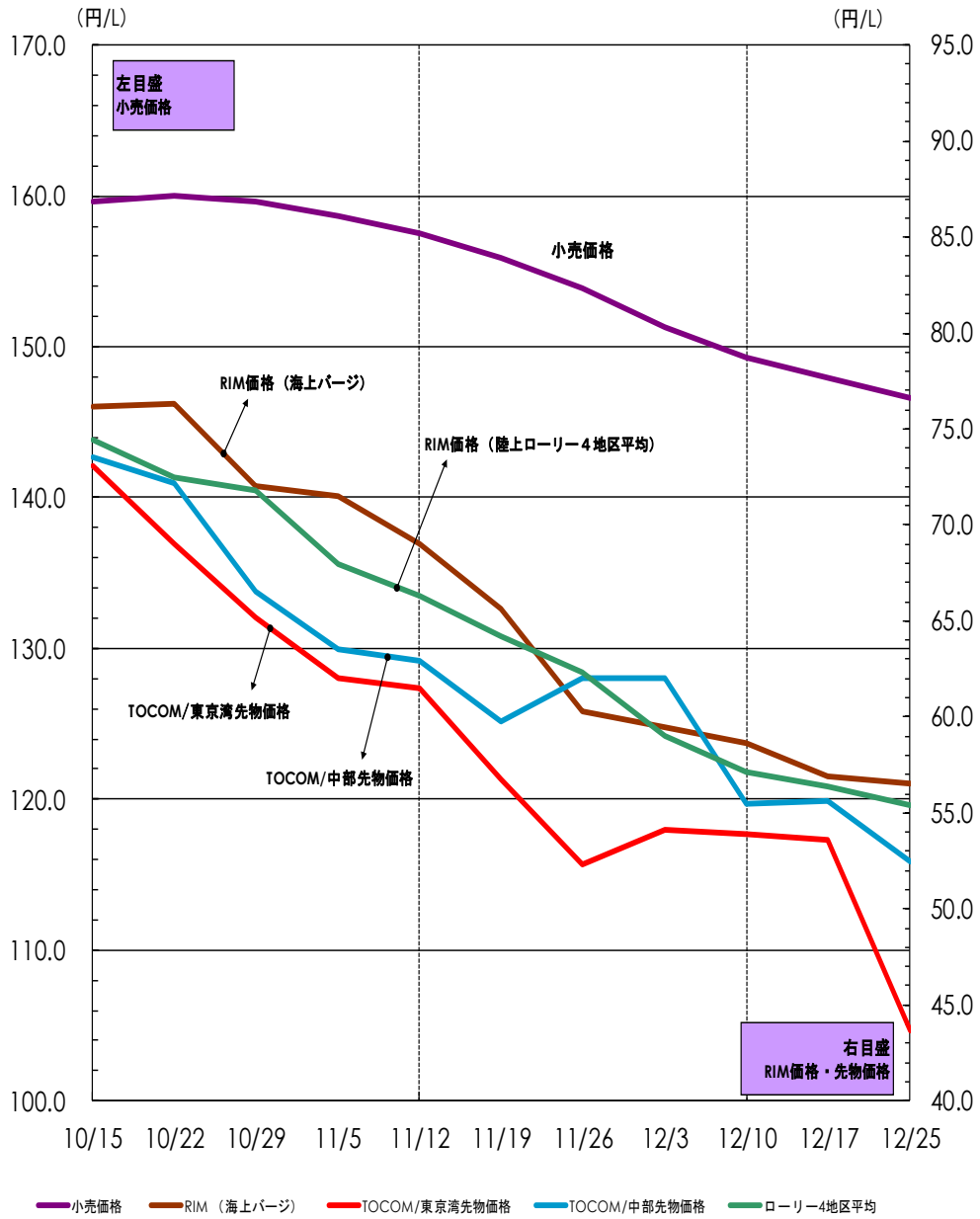
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2018/10/15 ~ 2018/12/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2018第38号)の公表は、1/11(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。